

2年美術科学習の手引き

【教科の目標】ものを見つめる目、何かを感じる心、自分の思いを表現する。

皆さんは1年生で絵画・彫刻・デザイン・鑑賞の基礎を身に付けてきました。2年生では、その基礎を基に、自画像や、人体塑像に取り組みます。2年生の美術の目標は、「自己をみつめる」です。自分の好きな形や色を考えじっくりと作品取り組んでいきましょう。

1. 授業への取り組み方〔約束〕

①授業に出る。

実技教科ですから、授業に出て学習や制作に取り組むことが大切です。出席率は評価に反映されます。

②用意を必ず持ってくる。

教科書(3冊)・クロッキー帳・新聞紙1枚

そのほか特別な用意はそのつど連絡します。すべての持ち物には名前をはっきりと書いて下さい。

授業の服装は体操着・ジャージで受けてください。

③時間を守る。

特別教室で制作するので、時間に遅れずに移動してください。休み時間は制作の準備をして待てるようにしましょう。

④教室や用具を使用する約束を守る。

そのつど道具の使い方を説明しますが、安全のための約束は必ず守ってください。

2. 制作に当たって・よい作品を作るには〔家庭学習について〕

ふだんの生活から美しいものや身近なものよさに気付き味わう姿勢をもちましょう。自分が感じたことやそこから考えたことを大切にしていきましょう。美術は作品を通して人と出会う時間でもあります。仲間の作品よさに気付き、認め合い吸収しましょう。

週に一度の教科です。見通しをもって計画的に制作しましょう。もし欠席したときは、進んだ分の確認をして自分で調整しましょう。

3. 評価の観点と評価の方法について

美術科の各学年の年間指導計画における評価規準に基づいて、三つの観点〔(知識技能)(思考・判断・表現)(主体的に学習に取り組む態度)〕を次のような場面や方法で評価し、それに基づいて総合的な評定〔通知票につく5段階〕を算出しています。

【評価の観点の趣旨】

① 知識・技能の評価について

- ・形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解している。
- ・造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。
- ・材料や用具の活かし方などを身に着け、意図に応じて工夫して表わしている。
- ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表わしている。

② 思考・判断・表現の能力

- ・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成をくふうし、心豊かに表現する構想を練っている。

③ 主体的に学習に取り組む態度

- ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。

【日常的な取組】

① 日々の授業の取組状況です。1回1回の授業を大切にして、楽しみながら意欲的に取り組むことができているかを、授業中の様子や制作カードや提出物〔計画と記録、感想、鑑賞カード等〕で評価します。用具の用意〔持ち物確認〕や、作業の準備片付けの仕方なども評価の対象になります。

② 構想〔アイデアスケッチ〕の段階、制作段階、完成後の互いの作品鑑賞など様々な段階に応じた取組を評価します。指示された方法で作品を提出し、教師のチェックを受けないと成績に加算されませんので、十分に注意してください。作品に名前がついていないときなども、成績に加算されないの注意してください。

No.	評価の観点 評価資料と 評価の把握の手だて	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	〔授業の取り組み〕	△	○	◎

	準備・片付け、持ち物確認、授業の取り組み内容、学習全般への意欲	皆さんの日々の授業の活動で示す様子（取り組む内容、行動、発言など）を毎時間観察記録しています。1時間の中で全員の活動を記録することは難しいので、「積極的に活動している」「必要な用具を準備していない」など、特徴的なことを観察しています。		
2	[作品] アイデアスケッチ、途中経過、完成作品	◎	◎	○
		活動を通して制作している作品を見ます。評価するに当たり、技術面の出来映えのよさだけでなく、途中段階での工夫や発想のユニークさなども参考にしています。作品は日々の授業の積み重ねですので、最後まで丁寧に仕上げるのが大切です。予告して途中課題を評価することもあります。		
3	[感想] レポート、作品の感想など	○	◎	◎
		完成後のまとめや感想などを書いてもらいます。必要に応じてそのつど書き込んできたか、学習のまとめがしっかりとできているかを見ます。文章で自分の思いを表すので、文字の丁寧さや内容の充実度は主体的に学習に取り組む態度、自己の表現に対する考え方やまとめ方の工夫は、思考・判断・表現で読みとることができます。		
5	鑑賞	○	◎	○
		鑑賞の時間や作品制作、発表での感想、教科書からの出題で、個々の表現の違いに興味・関心をもって、意欲的に美術作品に触れているかを見ます。		
◎○△については、それぞれの観点にかかわる重み付けをあらわしています。				

4. 年間の授業計画 ※題材は、生徒の実態や制作の流れによっては変更する場合があります。

学期	題材名 領域	学習のねらい	学習内容 技法など
1	私との対話 「14歳の自画像」	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな表現方法を工夫して自分を表現することに意欲を持って取り組む。 自分の姿を見つめて考えたことをもとに、今の自分の気持ちや将来の夢を表すなど、表現の構想を練る。 絵や立体など表現方法を工夫して、今の自分を表現する。 作品に託した思いや意図、表現の工夫について話し合う。 さまざまな技法を体験し、「14歳の自画像」の背景をデザインする。 表現したい技法を選び構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己と向き合い、自分の生き方と照らし合わせながら、自分の気持ちや性格、思い出や夢などについて考え、主題を生み出す。 主題を基に構図や色彩などを試行錯誤し、創造的な構成を工夫して練る。 材料などの特性を生かし、意図に応じて創意工夫して表わす。 自分や友達の作品を鑑賞し、その心情や表現の意図と表現の工夫について発表し合う。
2	モダン・テクニク	<ul style="list-style-type: none"> 新たなイメージの表現方法として、見え方の変化や質感の変化、できた形の面白さなどに気付き、自己表現に取り入れて活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> コラージュ、スパッタリング、マーブリング、ドリッピング、スクラッチ、フロッタージュ、デカルコマニー
3	瞬間の美しさを形に	<ul style="list-style-type: none"> 美しいと感じる動きの瞬間を表すことに興味を持つ 躍動感が伝わるように表現の構想を練る。 材料や用具の特徴を生かして、関節や筋肉の動きの表し方を工夫する。 自分の体験や気持ちを交えながら、動きの表現の工夫を感じ取る 	<ul style="list-style-type: none"> 人体の比率を学ぶ クロッキー 一瞬の人の動きの躍動感や緊張感、美しさなどから感じ取ったイメージを基に主題を生み出す。 関節や重心の位置「のびる」「ためる」などの動きの感じなどについて考え、形、色彩、材料などについて構想を練る。 主題を基に材料や用具を工夫し、人の瞬時の美しい動きを立体に表わす。 互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や躍動感を表現する工夫について話し合う。
	暮らしに息づく土の造形	<ul style="list-style-type: none"> 焼き物の材料、形や色彩などに着目し温かさなどをとらえ、加工方法を工夫して見直しをもって表わす。 焼き物の特性や美しさ、使う場面や使う人の気持ちをもとに、使い安さなどの工夫を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 焼き物のよさや使いやすさなどを生かして作ることに興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 使う目的や機能、美しさなどから形を考える。 土の特性を生かしながら、つくりたいものに合った技法で制作する。 制作順序や時間配分の計画を練る。 道具を選び手順よく制作する。

